

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

和邇部用光といふ^{わにべのもちみつ} 楽人^{がくにん}ありけり。土佐の御船遊び^{おみなあそ}に下りて、上りけるに、安芸の国、なにがしの泊^{とまり}にて、海賊押し寄せたりけり。弓矢の行方知らねば、防ぎ戦ふに力なくて、今はうたがひなく殺されなむと思ひて、ひちりきを取り出でて、屋形の上^{やかた}にゐて、「あの党^{あまたちよ}や。今は沙汰^{さた}に及ばず。疾^とくなにもものを取り給へ。ただし、年ごろ、思ひしめたるひちりきの、小調子^{こてうし}といふ曲、吹きAて聞かせ申さむ。さることこそありしかと、のちの物語にもし給へ」といひければ、宗徒^{むねと}の大きな声にて、「主たち^{おまたち}、しばし待ち給へ。かくいふことなり。もの聞け」といひければ、船を押さへて、おのおのしづまりたるに、用光^{もちみつ}、今はかぎりとおほえければ、涙を流して、めでたき音を吹き出でて、吹きすましたりけり。

をりからにや、その調べ、波の上にひびきて、かの潯陽江^{そんやうかう}のほとりに、琵琶^{びわ}を聞きし昔語り^{ちよんご}にことならず。海賊、静まりて、いふことなし。よくよく聞きて、曲終りて、先の声^{おほ}にて、「君が船に心をかけて、寄せたりつれども、曲の声に涙落ちて、かたさりぬ」とて、漕ぎ去りぬ。

(注) 楽人：音楽(雅楽)を演奏する人。 泊：港。 ひちりき(箏築)：竹製の縦笛

屋形：船の上に付けた屋根のある部屋。 宗徒：海賊の頭領のこと。
潯陽江：中国江西省付近を流れる揚子江の別称。
琵琶を聞きし昔語り：中国の詩人白樂天が、流れくる美しい琵琶の音を聞き、「琵琶行」という詩を作った話。

□(1) 〃線 a 「めて」、b 「押さへて」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

a [] b []

□(2) 〃線 A、Cの主語を次から選び、記号で答えなさい。(重複使用可)

A 用光 I 宗徒
ウ 海賊の手下たち A [] B [] C []

□(3) 〃線 ①「疾くなにもものをも取り給へ」、③「今はかぎりとおほえければ」を現代語訳しなさい。

① [] ③ []

□(4) 〃線 ②「かくいふ」とありますが、ここでは誰がどうするといっていますか。現代語で説明しなさい。

[]

□(5) 〃線 ④「声」とありますが、これを具体的に説明したものと最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 用光の声 I 海賊の宗徒の声 U 海賊の手下どもの声
エ ひちりきの音色 オ 琵琶の音色 []

□(6) この文章の内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 用光は海賊に襲われたが、その時自分のとった行動を後々の話題にせよと言った。
イ 用光は昔、中国にある揚子江のほとりで琵琶を演奏したことがあった。
ウ 海賊は用光の勇気ある行動に感激し、用光を師と考えるようになった。
エ 海賊は、貧しい用光の哀れな姿を見て、何も取らずに帰って行った。
オ 海賊はひちりきの魅力にとりつかれ、自分たちもひちりきの修行をしよと考えた。 []

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

刑部卿敦兼は、見めのよにくさげなる人なりけり。その北の方は、はなやかなる人なりけるが、五節を見はべりけるに、とりどりにはなやかなる人々のあるを見るにつけても、まづわがをとこの□*心憂く覚えけり。家に帰りて、すべてものをだに言はず、目をも見合はせず、うちそばむきてあれば、しばしは何事の出で来たるぞやと、心も得ず思ひもたるに、しだいに厭ひまさりて、かたはらいたきほどなり。さきさきのやうに一所にもあらず、方を変へて住みはべりけり。ある日、刑部卿出仕して、夜に入りて帰りたりけるに、出居に火をだにもとさず、装束は脱ぎたれども、たたむ人もなかりけり。女房どもみな御前のまびきに從ひて、さし出づる人もなかりければ、せんかたなくて、車寄せの妻戸を押し開けて、独りながめたるに、更闌け、夜静かにて、月の光・風の音、物ごとに身にしみわたりにて、人のうらめしさもとどろり添へて覚えるままに、心を澄まして、箏篳を取り出でて、時の音にとり澄まして、

*ませのうちなる白菊も うつろふ見るこそあはれなれ
 *かかしつつこそかれにしか
 *かたはらいたき…気の毒な。 出居…来客の接待用に使う応接間。
 *まびき…目くばせ。 更闌け…夜も深まり。
 *箏篳…笛の一種。 ませ…竹や木で造った低く粗い垣根。

(注) 北の方…貴人の妻の敬称。

五節…五人の舞姫によって演じられる舞楽を中心とする行事。

かたはらいたき…気の毒な。 出居…来客の接待用に使う応接間。

まびき…目くばせ。 更闌け…夜も深まり。

箏篳…笛の一種。 ませ…竹や木で造った低く粗い垣根。

〔古今著聞集〕より

□① — 線①「の」と文法的に同じ用法のものを次から選び、記号で答えなさい。

この国の博士どもの書ける物も、いにしへの□はい。あはれなること多かり。

□② 文章中の□*に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア つれなさ イ わろさ

ウ わびしさ エ をかしさ

□③ — 線②「心も得ず思ひもたる」の主語を次から選び、記号で答えなさい。

い。

ア 敦兼 イ 北の方

ウ さし出づる人 エ 女房ども

□④ — 線③「方」と同じ意味のものを次から選び、記号で答えなさい。

ア すべき方なき者 イ 無念やる方なし

ウ いかで涼しき方もやあると エ 神無月のつごもり方

□⑤ — 線④「ながめたるに」を現代語訳しなさい。

□⑥ — 線⑤「かかしつつこそかれにしか」とありますが、これはどういうことを言っているのですか。「かく」の内容を明らかにして、四十字以内

で説明しなさい。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとして、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらず。人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女もいやしければ、すまふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。^③ むていでいぬ。男、泣く泣くよめる。^④ 人が女を連れて家を出た。

* いでていなばたれか別れのかたからむありしにまさる今日は悲しもとよみて絶え入りにけり。親あわてにけり。なほ思ひてこそいひしか、いとかくしもあらじと思ふに、真実に絶え入りにければ、まどひて願^⑦たてけり。今日のいりあひばかり絶え入りて、またの日の戌の時ばかりなむ、からうじてい^⑩きいでたりける。

〔伊勢物語〕より

(注) いでていなば……自分から去ってゆくのなら、こんなに別れがたくも思わないだろう。無理に連れ去られるのだから、今日はいままでのでつらい思いよりもいっそう悲しいことだなあ。
戌の時：午後八時頃に。

□(1) — 線①「追ひやらす」とありますが、誰が、誰を「追ひやらす」にしているのですか。文章中から書き抜きなさい。

誰が [] 誰を []

□(2) — 線②「いきほひ」、④「むて」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

② [] ④ []

□(3) — 線③「とどむるよしなし」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 女の身分が低いので、周囲に結婚を反対されてもしかたないと思ったから。

イ まだ若く一人前になっていないので、親の意向に逆らう力がないから。
ウ 好きな男と一緒に出て行つたので、取り戻すのは難しいと思ったから。
エ 病気で気力がなくなっているから、女のあとを追いかけるから。

□(4) — 線⑤「たれ」を漢字で書きなさい。

[]

□(5) — 線⑥「絶え入りにけり」の主語を、文章中から書き抜きなさい。

[]

□(6) — 線⑦「願たてけり」とありますが、誰が、どのような「願をたてた」のですか。解答欄に合うように十五字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--

ようにと願を立てた。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

民部卿 藤原忠文は狩りに使うための鷹を飼育していた。式部卿の重明親王という人が、よい鷹をもらいに忠文のところへ出向いた。

忠文驚き騒ぎで、いそぎ出で会ひて、「こは何ごとによりて思ひかけず渡りたまへるぞ」と問ひければ、親王、「鷹あまた持ちたまへる由を聞きて、それ一つ給はらむと思ひて参りたるなり」とのたまひければ、忠文、「人などを以て仰せたまふべきことを、かくわざと渡らせたまへれば、何でか奉らぬ様は侍らむ」といひて、鷹を与へむとするに、鷹あまた持たる中に、第一にして持たりける鷹なむ、世に並なく賢かりける鷹にて、雉にあはするに必ず五十丈が内を過ぐさずして取りける鷹なれば、それをば惜しみて、次なりける鷹を取り出でて与へてけり。それもよき鷹にてはありけれども、かの第一の鷹には当るべくもあらず。

さて親王、鷹を得て喜びて、自ら居ゑて京に返りたまひけるに、道に雉の野に臥したりけるを見て、親王、この得たる鷹を合はせたりけるに、その鷹つたなくて鳥をえ取らざりければ、親王、「かくつたなき鷹を得させたりける」と腹立ちて、忠文の家に返り行きて、この鷹をば返してければ、忠文鷹を得ていはく、「これはよき鷹と思ひてこそ奉りつれ。さらば異鷹を奉らむ」といひて、「かくわざとおはしたるに」と思ひて、この第一の鷹を与へてけり。親王、また野に狗を入れて雉を狩らせけるに、雉の立ちたりけるに、かの鷹を合はせたりければ、その鷹また鳥を取らずして飛びて雲に入りて失せにけり。さればその度は親王、何にもたまはずして京に返りたまひにけり。

これと思ふに、その鷹、忠文の許にてはならびなく賢かりけれども、親王の手にてかくつたなくて失せにけるは、鷹も主を知りてあるなりけり。されば、智なき鳥獣なれども、本の主を知れる事かくのごとし。いはむや心あらむ人は、故を思ひ、専らに親しからむ人の為にはよかるべきなりとなむ、語り伝へたるとや。

(注) 渡る…移動する、行く、来る。

五十丈：「丈」は当時の長さの単位で、五十丈は約一五〇メートル。

□(1) 線「いはむや」の読み方を現代仮名遣いのひらがなで答えなさい。

□(2) 線①「鷹を与へむとするに」とありますが、忠文がそう考えた理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 重明親王が鷹をこよなく愛好していると聞き、献上した鷹も大切にしてくれそうだと考えたから。

イ ちようど自分が飼育している鷹の中に賢い鷹がいて、親友の重明親王にぜひ献上したいと考えていたから。

ウ 鷹をもらい受けるなどということは人に頼めば済みそうな内容なのに、重明親王自ら出向いてきてくれたから。

エ 重明親王は腹を立てやすい性格で、よい鷹を献上しないと次から次へと代わりの鷹を要求してきそうだから。

□(3) 線②「その鷹つたなくて鳥をえ取らざりければ」の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア この鷹は臆病で、鳥をなかなか捕まえようとしなかったため

イ この鷹は下手で、鳥を捕まえることができなかったため

ウ この鷹は弱々しくして、鳥を捕まえることなど思いもよらなかったため

エ この鷹は小さくて、鳥をたくさん捕まえようになかったため

□(4) 線③「鷹も主を知りてあるなりけり」とありますが、この話では、このことからのような教えを伝えていきますか。六十字以内で説明しなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、人のもとに宮仕してある生侍ありけり。する事のなきままに、清水へ人まねして千日詣を二度したりけり。その後いくばくもなくして、主のもとにありける同じやうなる侍と双六を打ちけるが、多く負けて、渡すべき物なかりけるに、いたく責めければ、思ひわびて、「我持ちたる物なし。只今貯へたる物としては清水に二千度参りたる事のみなんある。それを渡さん」といひければ、傍にて聞く人は、謀るなりと、痴に思ひて笑ひけるを、この勝ちたる侍、「いとよき事なり。渡さば得ん」といひて、「いな、かくては請け取らじ。三日して、この由を申して、おのれ渡す由の文書きて、渡さばこそ請け取らめ」といひければ、「よき事なり」と契りて、その日より精進して、三日といひける日、「さは、いざ清水へ」といひければ、この負侍、この痴者にあひたると、をかしく思ひて、悦びてつれて参りにけり。いふままに文書きて、御前にて師の僧呼びて事の由申させて、二千度参りつる事、それがしに双六に打ち入れつと書きて取らせければ、請け取りつつ悦びて伏し拝みまかり出でにけり。その後、いく程なくして、負侍、思ひかけぬ事にて捕へられて人屋に居にけり。勝ちたる侍は思ひかけぬ便ある妻まうけて、いとよく徳つきて、司などなりて、頼もしくてぞありける。

④「目に見えぬものなれど、まことの心を致して請け取りければ、仏、哀と思しめしたりけるなめり」とぞ人はいひける。 (「宇治拾遺物語」より)

(注) 生侍…若くて未熟な侍。身分の低い侍。

清水…清水寺。京都市にある古い寺。

千日詣…神社・仏閣に千日(千回)参詣して祈願を込めること。

双六…すごろく。盤の上で行う遊戯。

痴…愚かなこと。ばかげたこと。

渡さばこそ請け取らめ…渡すのなら受け取ろう。

人屋…牢屋。獄舎。

便…縁故、つて。ここでは妻の家柄がよく、頼れること。

司などなりて…官職を得て。

□(1) 線a「責めければ」、b「精進して」、c「書きて」の主語を次から

選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ選択肢を何度使用してもよい。)

- ア 主 イ 人 ウ 僧 エ 負侍
- オ 勝ちたる侍 カ 妻 キ 仏

a [] b [] c []

□(2) 線①「思ひわびて」とありますが、この口語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 考えすぎて イ 考えあぐねて ウ 考えなおして
- エ 考えないで オ 考えあわせて

[] []

□(3) 線②「文」とありますが、実際はどのように書かれたのですか。文中から二十五字以内で探し、初めと終わりの六字を書き抜きなさい。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

□(4) 線③「をかしく思ひて」とありますが、「負侍」はなぜそのように思ったのですか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

□(5) 線④「目に見えぬもの」とありますが、この文章の中ではなんという言葉で表されていますか。文章中から十一字で探し、書き抜きなさい。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

⑥ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある時、狼おほなつ喉のどに大きな骨を立てて、すでに難儀なんぎにおよびける折節、鶴つるこの由よしを見て、「御辺ごへんはなに事を悲しみ給ふぞ。」と言ふ。狼泣く泣く申けるは、「我喉わがのどに大きな骨を立て侍り。これをば御辺ごへんならでは救ひ給ふべき人なし。ひたすらに頼み奉る。」と言ひければ、鶴つる件のくちばしを伸べ、狼の口をあけさせ、骨をくはへて多いやと引きいだす。その時、A、Bに申しけるは、「今より後、この報恩ほうおんによつてしたしく申し語るべし。」と言ひければ、C怒つて言ふやうは、「なんぞ。汝なんぢがなにほどの恩を見せけるぞや。汝が頸くびしやふつと食ひきらぬも、今それがしが心にありしを、助けをくこそ汝がためには報恩なり。」と言ひければ、D力ちからにおよばず立ち去りぬ。

③ そのごとく、悪人に対してよき事を教ふといへども、かへつてその罪をなせり。然しかりといへども、悪人に対してよき事を教へん時は、天道てんたうに対し奉りて御奉公と思ふべし。
〔伊曾保物語いそほものがたりより〕

〔注〕 難儀：大きな危難。大きな苦惱。 この由：この様子。 御辺：あなた。
件の例のあ。 報恩：恩返し。 なんでふ：何を言うか。
しやふつと：即座にふつりと。

□(1) 文章中の A D に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア A 鶴 B 狼 C 狼 D 狼
- イ A 鶴 B 狼 C 狼 D 鶴
- ウ A 狼 B 鶴 C 鶴 D 狼
- エ A 狼 B 鶴 C 鶴 D 人々
- オ A 人々 B 狼 C 狼 D 鶴

□(2) 線①「この報恩」とは、何をしたことに対する恩返しですか。二十字以内で書きなさい(句読点を含む)。

□(3) 線②「力におよばず立ち去りぬ」とありますが、具体的にどのようなことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の力になろうと思つて立ち去らなかつた。
- イ 相手を説得しようと思つて立ち去らなかつた。
- ウ 相手の力には及ばないと思つて立ち去らなかつた。
- エ 相手を助ける力がないと思つて立ち去ってしまった。
- オ 相手の力にはかなわないと思つて立ち去ってしまった。

□(4) 線③「そのごとく」とありますが、どのような内容を指していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 助けた方はこの恩を忘れないと言つたにもかかわらず、助けられた方は恩など受けた覚えはないと言つたこと。
- イ 助けた方が恩返しなどには必要ないと言つたにもかかわらず、助けられた方はぜひ恩返しをさせて欲しいと言つたこと。
- ウ 助けられた方が恩返しをしたと言つたにもかかわらず、助けられた方は仲良くしてくれることが恩返しになると言つたこと。
- エ 助けた方がこれから仲良くしようと言つたにもかかわらず、助けられた方は命がただでもありがたく思えと言つたこと。
- オ 助けられた方がこれから親しくしようと言つたにもかかわらず、助けられた方は生きていだけで幸せだと思えと言つたこと。